

Abstract of Japanese Utility Model No. 3041992

Registration number of examined Japanese utility model: 3041992

Date of publication of application: 16.07.1997(July 16, 1997)

Application number: H9-2867

Date of filing: 03.02.1973(February 3, 1973)

Title of the invention: ERASER HOLDER

Applicant: MITSUBISHI PENCIL CO., LTD.

Inventor: HIROTAKE SATO

Abstract:

PROBLEMS TO BE SOLVED: To provide an eraser holder which the remaining amount of the eraser stored in an axile tube is visual from the outside. Therefore, it is possible to be exchanged with a new eraser at most suitable time without obstacles. In addition, because the eraser is colored, furthermore colored with the same color as a cap and a knock cap which are removable in the rear-end part of the axile tube, it improves the value of products as well as easily viewing the remaining amount of the eraser from the outside.

MEANS TO SOLVE THE PROBLEMS: In order to see an eraser E held therein from outside, at least the tip part (front axis 2) of the axile tube 1 is formed with transparent material. The eraser holder is equipped with a grip member 4, an inner axile tube 5 and a chuck ring 6 is also formed with transparent material as required, therefore the remaining amount of the eraser can be easily visual from outside.

This is English translation of ABSTRACT OF JAPANESE UTILITY MODEL registration No. 3041992 translated by Yukiko Naka.

DATE: March 6, 2007

FAÇADE ESAKA BLDG. 23-43, ESAKACHO 1CHOME, SUITA, OSAKA, JAPAN

Yukiko Naka

Yukiko Naka

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3041992号

(45) 発行日 平成9年(1997)10月3日

(24) 登録日 平成9年(1997)7月16日

(51) IntCl⁸

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 4 3 L 19/00

B 4 3 L 19/00

C

評価書の請求 未請求 請求項の数 11 F D (全 15 頁)

(21) 出願番号 実願平9-2867

(22) 出願日 平成9年(1997)3月31日

(73) 実用新案権者 000005957

三菱鉛筆株式会社

東京都品川区東大井5丁目23番37号

(72) 考案者 佐藤 浩崇

東京都品川区東大井5丁目23番37号 三菱

鉛筆株式会社内

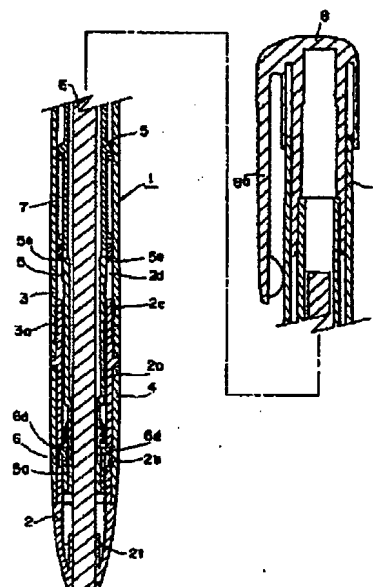
(74) 代理人 弁理士 木下 茂 (外1名)

(54) 【考案の名称】 消しゴムホルダー

(57) 【要約】

【課題】 軸筒内部に収納された消しゴムの残量を外部から視認することのできる消しゴムホルダーを提供する。

【解決手段】 内部に収容した消しゴムEが外部から見えるように軸筒1の少なくとも先端部分(先端2)を透明材で形成する。またグリップ部材4、中軸筒5およびチャックリング8を備える消しゴムホルダーにあっては、これら部材についても必要に応じて透明材で形成し、消しゴムの残量を外部から視認することのできるようにする。



(2)

実登3041992

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーにおいて、前記軸筒の少なくとも先端部分に透光性を持たせ、前記消しゴムの残量を視認できるようにしたことを特徴とする消しゴムホルダー。

【請求項2】 前記軸筒の少なくとも先端部分に透光性を持たせるため、前記軸筒の少なくとも先端部分を透明材で形成したことを特徴とする請求項1に記載された消しゴムホルダー。

【請求項3】 軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーにおいて、消しゴムを把持するチャック部を有する中軸筒と、前記チャック部の外側に位置して設けられたチャックリングと、前記中軸筒および弾性体が収納される軸筒とを備え、前記弾性体の付勢力に抗して前記中軸筒を移動させることにより、前記軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーであって、前記軸筒および前記中軸筒の少なくとも先端部分に透光性を持たせ、前記消しゴムの残量を視認できるようにしたことを特徴とする消しゴムホルダー。

【請求項4】 前記軸筒および前記中軸筒の少なくとも先端部分に透光性を持たせるため、前記軸筒および前記中軸筒の少なくとも先端部分を透明材で形成したことを特徴とする請求項3に記載された消しゴムホルダー。

【請求項5】 軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーにおいて、消しゴムを把持するチャック部を有する中軸筒と、前記チャック部の外側に位置して設けられたチャックリングと、前記中軸筒および弾性体が収納される先軸と後軸とからなる軸筒とを備え、前記弾性体の付勢力に抗して前記中軸筒を移動させることにより、前記先軸の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーであって、前記先軸および前記中軸筒に透光性を持たせ、前記消しゴムの残量を視認できるようにしたことを特徴とする消しゴムホルダー。

【請求項6】 前記先軸および前記中軸筒に透光性を持たせるため、前記先軸および前記中軸筒を透明材で形成したことを特徴とする請求項5に記載された消しゴムホルダー。

【請求項7】 前記軸筒外側あるいは前記先軸の外側に透光性のグリップ部材を配設したことを特徴とする請求項1乃至請求項6のいずれかに記載された消しゴムホルダー。

【請求項8】 前記チャックリングに透光性を持たせたことを特徴とする請求項3乃至請求項7のいずれかに記載された消しゴムホルダー。

【請求項9】 前記消しゴムは着色されると共に、前記軸筒の後端部分に着脱可能なキャップ、あるいは前記中軸筒の後端部分に着脱可能なノックキャップを配設し、

2

キャップあるいはノックキャップは前記消しゴムと同一色であることを特徴とする請求項1乃至請求項8に記載された消しゴムホルダー。

【請求項10】 軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーにおいて、前記消しゴムの残量を視認できるように、前記軸筒の少なくとも先端部分に透光性を持たせた消しゴムホルダーであって、前記軸筒に形成された軸方向のスリットと、前記スリットに設けられた係合部と、前記係合部に係脱する係止突部を有すると共に消しゴムの後端部分と係合したスライダとを備え、前記スリットに沿ってスライダを移動させることにより、軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことを特徴とする消しゴムホルダー。

【請求項11】 前記スライダと前記消しゴムとを同一色にしたことを特徴とする請求項10に記載された消しゴムホルダー。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の第1実施形態である消しゴムホルダーを示す縦断面図である。

【図2】 図1に示した先軸の拡大縦断面図である。

【図3】 図1に示した中軸筒とチャックリングとを組み立てた状態の斜視図である。

【図4】 本考案の第2実施形態である消しゴムホルダーを示す縦断面図である。

【図5】 本考案の第3実施形態である消しゴムホルダーを示す縦断面図である。

【符号の説明】

- | | |
|-----|---------|
| 1 | 軸筒 |
| 2 | 先軸 |
| 2 a | 装着部 |
| 2 b | 係止孔 |
| 2 c | 雄ねじ |
| 2 d | 係合孔 |
| 2 e | 切欠 |
| 2 f | 保持部 |
| 2 g | 保持部 |
| 3 | 後軸 |
| 3 a | 雌ねじ |
| 4 | グリップ部材 |
| 5 | 中軸筒 |
| 5 a | チャック部 |
| 5 b | 凸部 |
| 5 c | 凹部 |
| 5 d | 切り込み |
| 5 e | 起立突起 |
| 6 | チャックリング |
| 6 a | 凸部 |
| 6 b | 凹部 |
| 6 c | 切り込み |
| 6 d | 起立突起 |

(3)

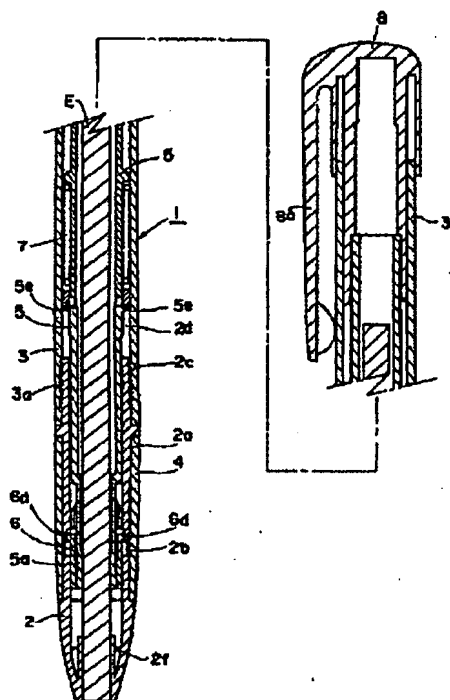
実登3041992

7 コイルスプリング
 8 ノックキャップ
 8a クリップ
 11 軸筒
 11a 段部
 11b 段部
 12 口金
 12a 突起
 13 中軸筒
 13a チャック部
 13b 突起
 14 チャックリング
 14a フランジ
 14b ストップ
 14c 凹部14c

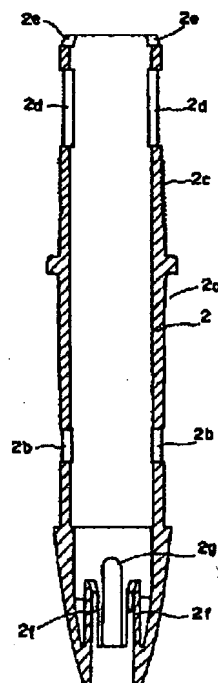
* 15 コイルスプリング
 16 ノックキャップ
 21 軸筒
 21a 狭窄部
 21b スリット
 21c 係合部
 22 スライダー
 22a 消しゴム保持部
 22b 係合突起
 22c 突片
 22d 溝み
 23 キャップ
 E 消しゴム
 e 被保持部

*

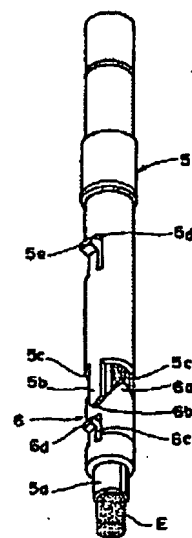
【図1】



【図2】



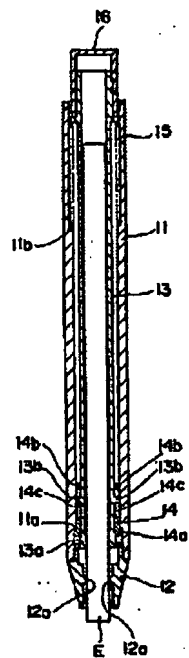
【図3】



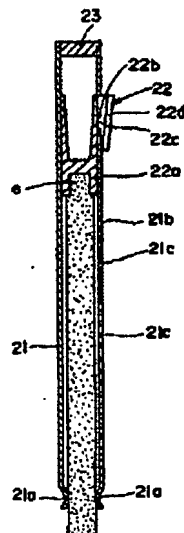
(4)

実登3041992

【図4】



【図5】



(5)

実登3041992

【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案は、軸筒の内部に収納された棒状の消しゴムを繰り出して使用する消しゴムホルダーに関し、詳しくは消しゴムの残量を容易に視認することができる消しゴムホルダーに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来の消しゴムホルダーとして、例えば実開平1-132792号公報に記載されているように、スライダーを軸筒に対してスライドさせることにより、軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできるものや、実開平2-94195号公報に記載されているように、弾性体の付勢力に抗して軸筒に収納された中軸筒を、前記軸筒に対して移動させることにより、軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできるものなどが提案されている。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、従来の消しゴムホルダーは、軸筒が不透明材で形成されているため、内部に収容されている消しゴムの残量を外部から視認できなかった。また、デザイン上の理由から軸筒の後端側（後軸）を透明材で形成し、内部の消しゴムを視認できる消しゴムホルダーが市販されている。しかしながら、この消しゴムホルダーにおいても軸筒の先端側（先軸）が不透明材で形成されているため、残り少なくなった消しゴムの残量を外部から視認できなかった。

そのため、使用者は、消しゴムホルダーに収納されている消しゴムが、消しゴム保持部またはチャック部から外れることにより、初めて新たな消しゴムに交換しなければならないことに気付いていた。

したがって、使用者は学力試験等において前記消しゴムホルダーを使用する場合、筆箱に消しゴムホルダーがあることの確認のみならず、その消しゴムの残量まで確認しなければならなかった。あるいはまた交換用の消しゴムを常に用意し

(6)

実登3041992

、消しゴムが消耗した場合、直ちに交換できるようにしなければならなかった。これらを怠り、消しゴムホルダー内の消しゴムが消耗した場合には、消しゴムが使用できなくなり、学力試験等において消しゴムが使用できないという大きな支障をきたすことあった。

【0004】

本考案は、上記したような不都合を解消するためになされたもので、消しゴムの残量を外部から容易に視認することのできる消しゴムホルダーを提供することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本考案にかかる消しゴムホルダーは、内部に収容した消しゴムを外部から見えるようにしたものである。

即ち、本考案にかかる消しゴムホルダーは、軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーにおいて、前記軸筒の少なくとも先端部分に透光性を持たせ、前記消しゴムの残量を視認できるようになしたことを基本的構成としている。ここで、前記軸筒の少なくとも先端部分に透光性を持たせるため、前記軸筒の少なくとも先端部分を透明材で形成するのが好ましい。

【0006】

また本考案にかかる消しゴムホルダーは、軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーにおいて、消しゴムを把持するチャック部を有する中軸筒と、前記チャック部の外側に位置して設けられたチャックリングと、前記中軸筒および弾性体が収納される軸筒とを備え、前記弾性体の付勢力に抗して前記中軸筒を移動させることにより、前記軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーであって、前記軸筒および前記中軸筒の少なくとも先端部分に透光性を持たせ、前記消しゴムの残量を視認できるようになしたことを基本的構成としている。

ここで、前記軸筒および前記中軸筒の少なくとも先端部分に透光性を持たせるため、前記軸筒および前記中軸筒の少なくとも先端部分を透明材で形成するのが好ましい。

(7)

実登3041892

【0007】

また本考案にかかる消しゴムホルダーは、軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーにおいて、消しゴムを把持するチャック部を有する中軸筒と、前記チャック部の外側に位置して設けられたチャックリングと、前記中軸筒および弾性体が収納される先軸と後軸とからなる軸筒とを備え、前記弾性体の付勢力に抗して前記中軸筒を移動させることにより、前記先軸の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーであって、前記先軸および前記中軸筒に透光性を持たせ、前記消しゴムの残量を視認できるようになしたことを基本的構成としている。

【0008】

ここで、前記先軸および前記中軸筒に透光性を持たせるため、前記先軸および前記中軸筒を透明材で形成するのが好ましい。また、前記軸筒外側あるいは前記先軸の外側に透光性のグリップ部材を配設するのが好ましい。更に、前記チャックリングに透光性を持たせることが好ましい。

また前記消しゴムは着色されると共に、前記軸筒の後端部分に着脱可能なキャップ、あるいは前記中軸筒の後端部分に着脱可能なノックキャップを配設し、キャップあるいはノックキャップは前記消しゴムと同一色であることが好ましい。

【0009】

更に、本考案にかかる消しゴムホルダーは、軸筒の先端から消しゴムを繰り出すことのできる消しゴムホルダーにおいて、前記消しゴムの残量を視認できるように、前記軸筒の少なくとも先端部分に透光性を持たせた消しゴムホルダーであって、前記軸筒に形成された軸方向のスリットと、前記スリットに設けられた係合部と、前記係合部に係脱する係止突部を有すると共に消しゴムの後端部分と係合したスライダーとを備え、前記スリットに沿ってスライダーを移動させることにより、軸筒の先端から消しゴムを繰り出すこと基本的構成としている。

ここで、前記スライダーと前記消しゴムとを同一色にするのが好ましい。

【0010】

本考案にかかる消しゴムホルダーは上記したように構成されているため、軸筒内部の消しゴムの残量を容易に確認することができる。特に、軸筒の少なくとも

(8)

実登3041992

先端部分に透光性を持たせたため、残り少なくなった消しゴムの残量を正確に確認することができる。また、軸筒および前記中軸筒の少なくとも先端部分、あるいはまた先軸および前記中軸筒に透光性を持たせたため、前記した場合と同様に、残り少なくなった消しゴムの残量を正確に確認することができる。

また、チャックリングをそなえるものにあつては、前記チャックリングに透光性を持たせたため、残り少なくなった消しゴムの残量を前記チャックリングに邪魔されることなく、正確に確認することができる。

【0011】

また、前記軸筒の外側あるいは、先軸の外側に透光性のグリップ部材が配設されているため、残り少なくなった消しゴムの残量を前記グリップ部材によって邪魔されることなく、正確に確認することができる。

その結果、最適な時期に新たな消しゴムに交換することができ、使用上支障をきたすことがない。

更に、消しゴムが着色されているため、消しゴムの残量を容易に確認することができる。しかも消しゴムが、スライダー、キャップ、ノックキャップと同一色で形成されているため、非常に見栄えが良く、商品価値を高めることができる。

【0012】

【考案の実施の形態】

以下、本考案の実施形態を図に基づいて説明する。

図1は本考案の第1の実施形態である消しゴムホルダーを示す縦断面図、図2は図1に示した先軸の拡大縦断面図、図3は図1に示した中軸筒とチャックリングとを組み立てた状態の斜視図である。

【0013】

これらの図において、1は軸筒を示し、この軸筒1は、前部に位置する透明なプラスチックで構成された先軸2と後部に位置する透明なプラスチックで構成された後軸3とが螺合することによって構成されている。

そして、先軸2の外側には、図2に示すように、後述するグリップ部材4を装着する装着部2aが設けられ、この装着部2aの形成された側壁には、180度間隔で係止孔2bが形成されている。また前記装着部2aよりも後側の側壁には

(9)

実登3041992

雄ねじ2 cが設けられ、この雄ねじ2 cよりも更に後側の側壁には、前記係止孔2 bの延長線上に整列され、しかも前記係止孔2 bよりも軸方向に長く形成された係合孔2 dが配置されている。また先軸2の後端には、係止孔2 bおよび係合孔2 dの延長線上に整列された切欠2 eが設けられている。

【0014】

また、先軸2の先端内側には、後端側へ向けて延設された棒状の消しゴムEを保持する保持部2 fと、前記消しゴムEを保持するとともに、後述するチャック部5 aを強制的に拡開させる保持部2 gとが周方向に交互に2つずつ設けられている。尚、保持部2 gの方が、保持部2 fよりも後方へ延設されている。

更に、後軸3には、先端内側に雄ねじ2 cが螺合する雌ねじ3 aが設けられている。

【0015】

図中の4は、装着部2 aに装着されるグリップ部材を示し、このグリップ部材4は透明で、しかも軟質なプラスチックで構成されている。

また、5は前記軸筒1内に摺動可能に配設された中軸筒を示し、この中軸筒5は透明なプラスチックで構成されている。そして、前記中軸筒5には、図3に示すように、先端に消しゴムEを保持するチャック部5 aが設けられ、このチャック部5 aの後側に180度の間隔で突出した凸部5 bと、この凸部5 bの間に位置して形成された2つの凹部5 cとが設けられている。また、前記凹部5 cよりも後側の側壁に、下側へコ字状に開放した切り込み5 dで囲まれた、前記係合孔2 dへ突入する2つの起立突起5 eが設けられている。

【0016】

また、6は軸筒1内に配設されるチャックリングを示し、透明なプラスチックで構成され、前記チャックリング6は前記チャック部5 aに遊嵌される。

このチャックリング6の後端には、図3に示すように、2つの凹部5 cに対応させて上側へ突出した凸部6 aと、2つの凸部5 bに対応させて下側へ凹んだ凹部6 bとが設けられ、またその側壁には、下側へコ字状に開放した切り込み6 cで囲まれた、前記係止孔2 bへ突入する起立突起6 dが設けられている。

【0017】

(10)

実登3041892

また、7はコイルスプリングを示し、前記コイルスプリング7は、先軸2と中軸筒5との間に装填され、中軸筒5を先軸2から上方へ突出させるように付勢するものである。また、8は後軸3の後端部に着脱可能に取り付けられるノックキャップを示し、このノックキャップ8は、例えば赤色、黄色、緑色、青色、黒色などの有色のプラスチックで構成されると共に、一体的にクリップ8aが設けられている。

また消しゴムEは、前記ノックキャップ8と同一の色に着色されると共に、円柱上に形成され中軸筒5に収納されている。

【0018】

次に、本考案の第1の実施形態である消しゴムホルダーの動作、作用について説明する。

まず、図1に示すように、中軸筒5がコイルスプリング7の付勢力によって後ろ側へ付勢される力でチャック部5aがチャックリング6で締め付けられ、チャック部5aが消しゴムEを保持している。この状態からノックキャップ8をノックすると、コイルスプリング7が圧縮され、中軸筒5が前進するため、前記中軸筒5の前進に伴ってチャックリング6も前進する。

【0019】

そして、チャックリング6が前進して、起立突起6dが先軸2の係止孔2bの前端縁に当接すると、チャックリング6は停止するので、この位置でチャック部5aとチャックリング6との係合が解除される。

この状態から、さらに中軸筒5が前進すると、チャック部5aは開放された状態で前進して以後の移動ストローク分だけ消しゴムEを繰り出す。

このようにチャックリング6の外れたチャック部5aが前進する過程で、チャック部5aの内側へ一對の保持部2gが進入してチャック部5aを拡開させるので、消しゴムEが容易に繰り出される。

【0020】

次に、ノックキャップ8への押圧力を解除すると、コイルスプリング7の付勢力によって中軸筒5およびチャックリング6が後退するが、消しゴムEは保持部2f、2gで保持されているので、後退および落下することなく、その繰り出

(11)

実登3041982

された位置を維持する。そして、中軸筒5が完全に後退すると、チャック部5aがチャックリング6で締め付けられるので、チャック部5aは再び消しゴムEを保持した状態になる。

【0021】

尚、使用後に消しゴムEを筒軸1内へ戻す場合は、ノックキャップ8をノックした状態に維持すると、上述したようにチャック部5aは拡開するので、この状態で消しゴムEを押し込んだ後、ノックキャップ8の押圧力を解除することによって、消しゴムEが筒軸1内へ戻すことができる。

また消しゴムEの交換は、ノックキャップ8を外して、新たな消しゴムEを中軸筒5内へ挿入することによって行うことができる。

【0022】

このようにして消しゴムEを順次繰り出すとき、軸筒1、グリップ4、中軸筒5およびチャックリング6が透明であるので、消しゴムEの残量を外部から視認することができる。その結果、消しゴムEがチャック部5aから外れる前に新たな消しゴムEに交換することができ、使用上支障をきたすことがない。

そして、消しゴムEを着色した場合には、見た目がよくなるとともに、消しゴムEの残量を容易に視認することができる。

【0023】

次に、本考案の第2の実施形態を図4に基づいて説明する。尚、図4は本考案の第2実施形態である消しゴムホルダーを示す縦断面図である。

図4において、11は透明なプラスチックで構成された軸筒を示し、この軸筒11にはその内側前端部分に段部11aが設けられ、また内側後部にも段部11bが設けられている。また、12は前記軸筒11の前端に螺合する透明な口金を示し、前記口金12は透明なプラスチックで構成されると共に、内側に消しゴムEを保持する突起12aが複数設けられている。

【0024】

13は軸筒11内に摺動可能に配設される中軸筒を示し、前記中軸筒13は、透明なプラスチックで構成されている。そして、この中軸筒13には、先端に消しゴムEを保持するチャック部13aが設けられると共に、前部外側に180度

(12)

実登3041992

の間隔で突起13bが設けられている。

また、14は軸筒11内に配設されるチャックリングを示し、前記チャックリング14は透明なプラスチックで構成されると共に、チャック部13aが遊嵌される。そして、チャックリング14の前端部には、段部11aに当接するフランジ14aが設けられ、また後端部には突起13bが挿入されるストッパ14b付きの凹部14cが設けられている。

更に、15はコイルスプリングを示し、このコイルスプリング15は、軸筒11と中軸筒13との間に装填され、中軸筒13を軸筒11から上方へ突出させるように付勢するものである。また、6は軸筒11の後端部に着脱可能に取り付けられるノックキャップを示し、このノックキャップ16は、例えば赤色、黄色、緑色、青色、黒色などの有色のプラスチックで構成されている。

尚、消しゴムEはノックキャップ16と同一色に着色されている。

【0025】

この第2実施形態にかかる消しゴムホルダーは、第1実施形態と基本的に同様の動作作用をなすものである。したがって、その動作作用の概要を説明し、その詳細は省略する。

この消しゴムホルダーにおいて、消しゴムEを繰り出したり、口金12内に収納するには、まず中筒軸13をノックして前進させる。このノックによってチャックリング14のフランジ14aは、口金12の端部に当たって前進動が阻止されるが、前記中筒軸13は前進し、中軸筒13の先端に設けられたチャック部13aは拡開される。

この結果、消しゴムEは口金12の内方突起12aにより前進位置に保持される。その後、中筒軸13がコイルスプリング15によって後退すると、チャックリング14によってチャック部13aは閉じられ、前記チャック部13aによって、消しゴムは確実に保持される。

【0026】

また、第2実施形態の消しゴムホルダーにおいても、軸筒11、口金12、中軸筒13およびチャックリング14が透明に形成されているので、消しゴムEの残量を外部から視認することができるため、消しゴムEがチャック部13aから

(13)

実登3041992

外れる前に新たな消しゴムEに交換することができる。そのため、使用上支障をきたすことはない。

また消しゴムEを着色したので、見た目がよくなるとともに、消しゴムEの残量を確実に視認することができる。

【0027】

次に、本考案の第3の実施形態を図5に基づいて説明する。尚、図5は本考案の第3実施形態である消しゴムホルダーを示す縦断面図である。

図5において、21は透明なプラスチックで構成された軸筒を示し、この軸筒21は横断面が扁平な矩形形状をなしている。そして、前記軸筒21には、先端に消しゴムEを保持する狭窄部21aが設けられ、幅の狭い上面には軸方向のスリット21bが設けられるとともに、このスリット21bの両側に鋸歯状の係合部21cが設けられている。

【0028】

また、22は前記スリット21bに沿って移動可能に軸筒21に配設されるスライダーを示し、このスライダー22は例えば赤色、黄色、緑色、青色、黒色などの有色のプラスチックで側面形状がH字状に構成されている。そして、前記スライダー22には、前端に相對峙した2つの板状部材からなる消しゴム保持部22aが設けられている。また前記スライダー22の一側面には、係合部21cに係脱する係合突起22bと、前記スリット21bから突出する突片22cと、この突片22cの先端に位置する摘み22dとが設けられている。

【0029】

また、23は前記軸筒21の後端部に着脱可能に取り付けられるキャップを示し、このキャップ23は、例えば赤色、黄色、緑色、青色、黒色などの有色のプラスチックで構成されている。

尚、消しゴムEは前記キャップ23と同一の色に着色されている。また消しゴムEの後端には、消しゴム保持部22aで保持される被保持部eが設けられている。また、スライダー22、キャップ23、消しゴムEは同一色に着色されているものであってもよい。

【0030】

(14)

実登3041992

次に、この第3実施形態にかかる消しゴムホルダーの動作作用について説明する。

まず、図5に示す状態で、軸筒21のスリット21bから突出した摘み22dを、軸筒21側へ押圧してスライダ22を撓ませることにより、係合突起22bを係合部21cから離脱させる。この係合が解かれることにより、スライダ22は移動可能状態となり、スライダ22を軸筒21の軸方向へ移動させることができる。スライダ22を前進させることにより、軸筒21の先端から消しゴムEを突出させることができる。

【0031】

そして、軸筒21の先端から消しゴムEを所定長突出させた後、摘み22dへの押圧力を解除すると、スライダ22が元の状態に復帰することにより、係合突起22bが係合部21cに係合する。その結果、消しゴムEを軸筒21の軸方向へ移動しないように固定できる。

尚、使用後に消しゴムEを軸筒21内へ戻す場合は、上述した手順でスライダ22を後退させることにより、消しゴムEを軸筒21内へ戻すことができる。

【0032】

この第3実施形態の消しゴムホルダーにおいては、軸筒21のスリット21bの隙間から軸筒21内部の消しゴムEの確認することができるが、軸筒21の先端部分には、スリット21bが形成されていないため、消しゴムEの残量を確認することができない。

そのため、軸筒21を、特に軸筒21の先端部分を透明材で形成したため、消しゴムEの残量を外部から視認することができる。そして、消しゴムEが消しゴム保持部22aから外れる前に新たな消しゴムEに交換することができ、使用上支障をきたすことはない。

また、消しゴムEを着色することにより、見た目がよくなるとともに、消しゴムEの残量を容易に視認することができる。また消しゴムEとスライダ22、あるいは消しゴムEとキャップ23、あるいは消しゴムEとスライダ22とキャップ23を同一色としたため、商品価値を高めることができる。

【0033】

(15)

実登3041892

なお、上記した実施形態は、透光性を持たせるために各部分を透明にしたが、半透明であっても同様な効果を得ることができる。また、第1実施形態において、後軸3も透明にしたが、この後軸3を消しゴムEと同色にし、先軸2のみを透明、半透明に形成しても、消しゴムEの交換時期を視認することができる。更に、第2および第3実施形態において、第1実施形態のように、透明なグリップ部材を軸筒11、21の外側に配設してもよい。

また、透光性を持たせるため所定の部材を透明材としたが、所定の部材を不透明材で形成し、スリットのような開口部を形成することによって、消しゴムの残量を確認するようにしてもよい。

【0034】

【考案の効果】

以上のように、本考案は、軸筒内に収容した消しゴムを外部から見えることができるように構成されているため、消しゴムの残量を外部から視認することができる。その結果、最適な時期に新たな消しゴムに交換することができ、使用上支障をきたすことはない。

そして、また消しゴムが着色され、しかもキャップ、ノックキャップ等と同一色に着色されているため、消しゴムの残量を容易に視認できると共に、商品価値を高めることができる。